

1. 定光寺前遺跡について

定光寺前遺跡は、壱岐市芦辺町湯岳本村触の定光寺という寺の敷地内にある遺跡です。定光寺は江戸時代末期に編纂された『壱岐名勝図誌』によると、平清盛が建立した寺院と記載されており（資料1）、2件の県指定有形文化財が登録されています（資料2）。また、定光寺前遺跡の周辺には興触遺跡や観城（とじょう）跡など古代から中世にかけての遺跡があります（資料3）。興触遺跡は興神社の周辺にあり、古代の壱岐国府があったと推測されている場所のひとつです。観城跡は平治の乱で源義朝の首をとった長田忠致（おさだただむね）が壱岐守に任命されて築城したものとされ、いずれの遺跡においても過去の発掘調査では中国、ベトナムなどの貿易陶磁器が多数出土しています。

このような遺跡が眼下に広がる定光寺前遺跡は、弥生時代から中世の遺跡として昭和60年に周知されて以来発掘調査が行われていませんでした。令和元年度に初めて長崎県埋蔵文化財センターと壱岐高校東アジア歴史・中国語コースが発掘調査を行い、その結果、古代末から中世の中国産の白磁や青磁、朝鮮半島産の陶磁器、土師器などが出土しています。

2. 壱岐高校東アジア歴史・中国語コースによる歴史探究の歩み

長崎県埋蔵文化財センターは平成15年度にコースが開設されて以来、授業支援を行っています。以前は考古学の概説的な講義や原の辻遺跡発掘体験、土器作り体験等の実習などの指導を行ってきましたが、平成29年度から奈良大学主催の全国高校生歴史フォーラムに研究論文を応募するため、フィールドワークとその後の整理作業を行う中で、考古学の専門的な知識や技能を習得する、という形態に改めました。自分で本物の遺物を採集するフィールドワークを取り入れることで、歴史の面白さを体感できると同時に、1つの研究テーマにチームで取り組み、生徒一人ひとりの得手不得手を補い合いながら研究の一連の流れを経験し、今後何かを探究したいと思った際にどのように取り組めばいいのか考える素地を培うことを目標に支援しています。平成29年度は馬立（もうたる）海岸遺跡、平成30年度は大久保遺跡、令和元年度は車出遺跡群をフィールドとして研究を行いました。これまでの研究は、限られた授業時間内で取り組むことができる地表調査を主体に、遺跡周辺に散布している遺物を採集してそれをもとに研究を行ってきましたが、昨年度からは一定の授業時間を確保したうえで、これまで取り組むことができなかった発掘調査を実施し、壱岐の歴史の更なる解明に挑戦しています。

【資料1】文久元（1861）年後藤正恒著 吉野鞆千代画『壹岐名勝図誌』巻之六

湯嶽山定光禪寺 在本村

本尊聖観音坐像、長二尺七寸、脇土不動・多門立像、各長一尺五分、各行基菩薩の作にして
國中七堂七体の其一なりと云。客殿本尊宝冠釈迦如来座像、長一尺、脇土文殊・普賢。

画像

仏殿 南向 桁二間半 梁同上 茅葺

客殿 桁五間 梁六尺 茅葺

玄関 桁九尺 梁六尺 瓦葺

廊下 桁二間二尺 梁一間 瓦葺

庫裡 桁六間 梁四間 茅葺

門 桁七尺 梁六尺五寸 瓦葺

境内 東西六十六間 南北一百廿六間 周圍四百廿五間

内寺地 東西十六間 南北二十五間

鐘 高二尺四寸五分 亘一尺七寸六分 寛延四辛未仲冬掛之

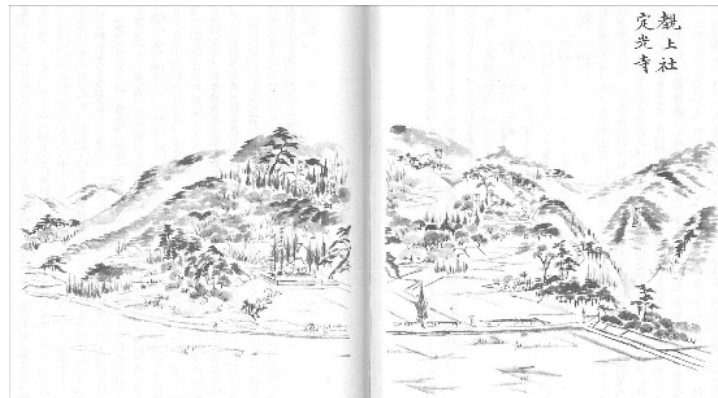
当寺ハ平相国清盛公の建立にして、天山和尚の開基といへり。老松山の末派なり。昔ハ大寺なり
しとぞ。寺領一町と永祿田帳にしるす所なり。又同帳云、二反七畝廿三歩、高六石三斗四升八合
定光寺とあり。元和三年拾石の国印状ありといへとも、其後減して寛永二年以来五石となれり。
其寄附状五通あり。

元和三年隆信朝臣 寛永二年同上

寛永廿年鎮信朝臣 元禄九年任朝臣

享保七年篤信朝臣

亦境内に馬形石とて高一尺四寸、横一尺三寸、中に瘤あり。其瘤の縦三寸八分、横二寸。六地藏
を彫割して、前に定光住山花屋叟としるし、脇に永正六天巳今月吉日とありしと。或云、此塔ハ
渡城の城主討死の後追善のため、定光前住花屋か建立する所ならむともいへり。委しく統風土記
にしるされたり。然れとも今ハ失て見えす。埋めなどせしものか。



【資料2】定光寺の県指定有形文化財

- ・ 定光寺の銅製雲版

<http://www.pref.nagasaki.jp/bunkadb/index.php/view/495>

- ・ 定光寺の木造宝冠釈迦如来座像

<http://www.pref.nagasaki.jp/bunkadb/index.php/view/492>

※いずれも「長崎県の文化財」（県ホームページ内）で御覧になれます。

【資料3】定光寺前遺跡周辺遺跡（長崎県学芸文化課「長崎県遺跡地図」に加筆）

